

事業番号	25
------	----

平成30年度 事務事業評価シート(実施計画事業 **経常事業**)

事業の概要	事務事業名	市民まつり開催委託事業						担当部	地域活性化営業部			
	会計区分	一般会計						担当課	シティプロモーション課			
	事業期間	平成12年度以前			～	平成31年度以降			担当係	にぎわい創出係		
	基本施策・展開方向	5	産業・交流		18	シティプロモーション		3	魅力あるイベント・まつりを開催します			
	予算区分	款	7	項	1	目	4	大	3	中	1	
	根拠法令・個別計画											
	目的	何・誰を対象に	市民及び観光客									
		どの様な状態にするのか	市民の幅広いふれあい、交流を目的として、市民・行政・企業が一体となった運営・企画を行い、より多くの市民に親しまれ、参加してもらえるまつりとする。									
		内容(手段) 目的達成のためにどのような事業を実施したか	<p>◆29年度実施内容</p> <p>・市民参加型の交流を目指し、参加する方も見る方も楽しく、また来たくなるようなまつりの実施を市民まつり実行委員会へ委託した。市はその実行委員会の事務局運営を行った。しかし、1日目は雨、2日目は、台風の接近が予想されたため、安全を第一に考え、屋外の行事を全て中止とした。38回の歴史の中で、屋外行事全てを中止することは初めてのことであったが、早めの連絡、連携等により、事故もなく無事に終了することが出来た。尚、屋内行事については、2日間開催することが出来た。</p> <p>会場：小牧山、市民会館・市公民館、まなび創造館、メロディーパーク、駅西駐車場、パレット</p> <p>経費：市からの委託金、市内外の各事業所からの協賛金</p> <p>◆29年度直接経費の内訳 ・市民まつり開催委託料 37,000千円</p> <p>【参考】全体の歳入 50,089千円 (内 委託金 37,000千円、協賛金等 13,089千円)</p> <p>【現在の会場】</p> <p>・「小牧山会場」：メイン会場。歴史と自然溢れる小牧山全体を活用し、親子で楽しめるイベントを多く開催。</p> <p>・「市民会館会場」：「食べる・見る・遊ぶ」のバランスのとれた会場で、幅広い年齢層が楽しめる。 ※八雲コーナー、こまきフレンドパーク(子どもが遊べる場)、バレエ、琴、民謡等</p> <p>・「まなび創造館」：お茶、お花、歌など楽しめる文化会場。</p> <p>・「メロディーパーク」：ダンスを中心とした新しい小牧を発見できるような会場。キッズ達があつまる。</p> <p>ご当地グルメフェアを開催し、県外のグルメが楽しめる。</p> <p>・「駅西駐車場」：市民によるフリーマーケットが楽しめる。市民のふれあい、リサイクルの促進が図られる。</p> <p>◆30年度直接経費の内訳 ・市民まつり開催委託料 36,700千円</p>									
		受益者負担	無									

		単位	H26決算額	H27決算額	H28決算額	H29決算額	H30予算額	
事業費	直接経費	千円	35,000	43,132	36,000	37,000	36,700	
	正職員	従事者数	人	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
		人件費	千円	7,486	7,486	7,486	7,486	7,486
	その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		人件費	千円	0	0	0	0	0
	費用合計		千円	42,486	50,618	43,486	44,486	44,186
	対前年比		%	—	119.1	85.9	102.2	99.3
財源	一般財源	千円	42,486	50,618	43,486	44,486	44,186	
	国・県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	その他財源	千円	0	0	0	0	0	

業 績	成果指標名	単位		H26	H27	H28	H29	H30
	総行事数	行事	目標	170	170	210	210	20
			実績	166	209	215	122	
	開催会場数	箇所	目標	6	6	6	6	6
			実績	6	6	6	6	
	活動指標名	単位		H26	H27	H28	H29	H30
来場者数	人	目標	185,000	200,000	190,000	190,000	190,000	
		実績	185,000	210,000	190,000	32,000		
		目標						
		実績						

事業 の 評 価	平成 29 年度	事業の 達成状況	天候の影響により、来場者数は激減した。雨によるパレードの中止などは過去にもあったが、屋外行事全て中止することは、今回初めてのことであった。今年度の来場者数については、比較の対象とならないと考える。来場者の安全、参加者の安全、撤収作業の安全などを最優先した結果であり、大きな事故等なく、最良の選択であったと考える。						
		事業実施における 課題	台風など予想があたりやすい災害に対する早めの対策、また、明確な判断基準の確立と参加者、来場者への周知方法を今後検討する必要がある。						
	平成 30 年度	30年度における実 施内容や結果見 込み	同じように開催すること、変えていくことを考慮し、さらなる活性化を図り、まつり全体を盛り上げる。						
	平成 31 年度 以降	事業の方向性	縮 小	対象や手段の絞込み等により、事業のボリュームを縮小すべきもの					
		削減額・削減対象	事務事業評価による額	500	千円	予算区分	16	節	節
		判定理由・削減内 容	来場者に行ったアンケートでは、約90%以上の方が楽しかったと回答しており、満足の高いまつりとなっている。 2日間で19万人もの来場者がある。また、行事に参加する団体も増加しており、市民の多くが参加し、楽しみにしているまつりとなっている。 しかし、市民まつりの財源でもある企業からの協賛金が年々減少しており、現在の水準を維持するためには、経費の削減が必要である。						
	31年度以降 の実施内容	31年度以降、駅前会場が使用できなくなることから、会場の再編を行い、来場者の満足度を下げることなく、経費の削減を図っていく。							